

また、戦後の「個」を重視する社会は、それまで、三世代同居が当たり前だった大家族生活を一変させ、「核家族」化を拡大しました。

「核家族」の中では、かふちようせいど家父長制度に見られた「家のルール」が消滅し、一人ひとりの「自己愛」を優先、「利己主義」へんちよう偏重教育と相俟ったために、過去には日本の美德とされた「互いを思いやる」きはく道德心が希薄になってしまいました。

この社会的な「思いやり」の欠如は、けつじよ自由経済社会の底辺で喘ぐ人々を片隅に追い詰め、病める老人の家庭介護を放棄する現象までも生起させました。

一人暮らし高齢者の孤独死ほどかわいそう可哀相なことはありません。

これら現代社会の傾向は、金銭的、精神的に追い詰められた社会的弱者に自ら生命を絶たせるようになり、その数は過去十年間に亘り、三万人を超えてしまったのです。

我が国の自殺者は、二〇〇九年度、三万二、八四五人（自殺対策白書二〇一〇抜粋）の多数にのぼります。

以上のような殺人や自殺行為は、地球の生命進化を継承すべき人類の使命に逆行することなのです。この防止には、自他共に生かす視点から社会道徳心を改善し、「互いを思いやる心」と「地域社会の絆」とを醸成強化することが急務と云えます。

いずれにしても、事故、犯罪、あるいは、自殺行為によって貴重な人の生命が奪われているのです。

しかし、人の生命を最大限に奪い去るのは、人為的な戦争に他なりません。

人類が地球上に生息し始めた頃は、群れとしての集団生活の中で、他の群れとの間に食物や生活圏をめぐる小競り合いを重ねていたことが、現代の高等霊長類であるゴリラ等の生態観察を通して推測されます。

その後、人類は進化を重ね、地上に四大文明を発祥させ、文字を残すようになりました。発掘された古代文字による戦争の最古記録は、今を去る約四五〇〇年前、メソポタミアに栄えたシュメールのラガシュ第一王朝が紀元前（BC）二四二五年頃に建立した戦勝記念碑「ハゲワシの碑」とされています。この欠落が多い碑文から、戦いの詳細は読み取れません。

戦いの詳細が判明できる古代の戦争記録は、エジプトのアブ・シンベル神殿に残っています。この記録が明らかにするのは、BC二八五年、エジプト新王国のラムセス二世の軍勢二万人とヒッタイトのムワタリ王の軍勢一万七〇〇〇人とがガデシュの地で戦った（「カデシュの戦い」）事実です。

他方、インダス文明のインドでは、BC一〇〇〇年頃には十六王国の戦争興亡があり、黄河文明の中国では、BC八世紀頃、春秋・戦国時代を迎え、各地で戦闘が繰り返されていました。

このように、世界最古の四大文明を発祥させた古代人は、既に、夫々の地域で戦争を生起させていたのです。

ひるがえ
翻って、我が国では、一九八六年発掘された九州の吉野ヶ里遺跡に戦闘の痕跡が確認されました。

この吉野ヶ里の集落は、BC三世紀から紀元後（AD）三世紀まで約六〇〇年間、活動したと推定されていますが、ここから発掘された瓶棺からは、首が欠落した、あるいは、胸に鏃が残ったままの遺骨が発見されたのです。

この事実は、縄文時代には狩猟採集を主体とした互助的な生活様式であったものが、吉野ヶ里集落が活動した弥生時代では、稲作による食料の安定収穫とともに余剰糧食の貯蔵が可能になったために、集落間で貯蔵糧食の争奪戦が開始されたことを物語っています。

また、古代日本の実情を記載した中国の『三国志』魏書東夷伝倭人条」には、AD二世紀に「倭国大乱」があったと記されており、当時の日本国内では、既に、覇権争いが始まっていたと推定されます。

その後、人類史上では、兵器の改良発達につれて戦闘の規模が拡大の一途を辿って行きました。

我が国では、一六〇〇年の「関原の戦い」で、東軍九万人と西軍八万人とが争いましたし、また、一八一二年のナポレオン軍のロシア侵攻には四十八万の仏軍が出兵、四十五万人が戦闘と寒波の中で生命を失ったとされます。

このような、古代から一九世紀までに生じた戦争（戦闘）の大きな特徴は、戦場で戦った者達が軍人に限られていたことなのです。

しかし、二十世紀を通して飛躍的に進歩した科学技術は、戦車・長距離砲・航空機・弩級（超大型）戦艦・潜水艦・毒ガス等を次々に生み出し、一九一四年に始まった第一次世界大戦では、広大な戦域と莫大な戦費が不可欠となったために、国家を挙げて戦う「総力戦」の様相を呈するに至りました。五年間の戦闘で失われた人命は、軍人約九〇〇万人、一般市民約一、〇〇〇万人と桁違いに増大するとともに、戦場の拡大に伴って一般市民の犠牲者が軍人を上回るようになってしまったのです。

更に、一九三九年、欧州で勃発した第二次世界大戦では、戦略爆撃機・航空母艦・ロケット弾（Vロケット）・原子爆弾を新たに開発して、戦場だけでなく

敵地^{てきち}全域で使用した結果、死者・行方不明者は軍人約二、六〇〇万人、一般市民約三、〇〇〇万人と史上最大の犠牲者を生み出しました。一般市民の犠牲者の中には、大量破壊兵器として最後に登場した原子爆弾によって、一瞬のうち^{たいうち}に生命^{いのち}が奪われた、我が国の広島市民約二十四万人、長崎市民約七万五、〇〇〇人が含まれています。

このように、人の生命^{いのち}を奪うもののうち、その被害が格段に大きいために、また、人体への損壊^{そんかい}が余りに惨^{むじ}いために、

『 戦争こそが人類の生命継承^{せいめいけいしょう}を妨^{さまた}げる最大の障害なのだ 』

と断定するのです。